

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-211118

(43) 公開日 平成10年(1998) 8月11日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 4 7 K 11/10

A 4 7 K 11/10

A 4 7 L 13/46

A 4 7 L 13/46

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平9-15424

(22) 出願日 平成9年(1997) 1月29日

(71) 出願人 000186588

小林製薬株式会社

大阪府大阪市中央区道修町4丁目3番6号

(72) 発明者 山下 素子

大阪府大阪市淀川区三津屋南3丁目13番35

号 小林製薬株式会社大阪工場内

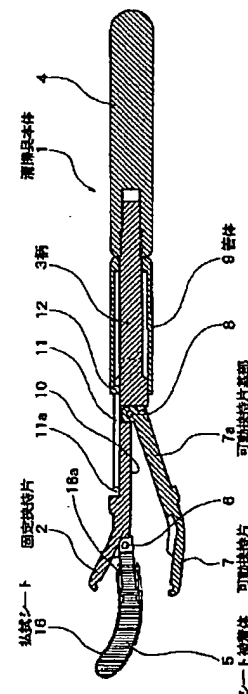
(74) 代理人 弁理士 角田 嘉宏 (外1名)

(54) 【発明の名称】 便器等の清掃具

(57) 【要約】

【課題】 払拭シートが被着されるシート被着片の柄に対する形態的な制約をなくし、払拭シートの有効使用面積を拡大する。

【解決手段】 固定挟持片2下部にシート被着片5を枢着し、シート被着片材下部に可動挟持片7を配し、その基部7aを後方に延長して固定支持片と一体の柄3部に枢着し、可動挟持片後部を柄部に固定する固定手段9を配装する。シート被着片は、固定挟持片側に反らし形態を採ることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】固定挟持片後方に柄を延設し、固定挟持片下部にシート被着片を配し開閉動自在に枢着し、シート被着片材下部に可動挟持片を配しその後部を後方に延長して柄部に枢着し、該可動挟持片後部に連係して可動挟持片を閉じ位置に固定する固定手段を配装したことを特徴とする便器等の清掃具。

【請求項2】シート被着片の前半部を固定挟持片側に反らし、シート被着片の後半部に合わせて固定挟持片と可動挟持片を反らし形態にしたことを特徴とする請求項1記載の便器等の清掃具。

【請求項3】可動挟持片が固定手段から開放されて可動挟持片とシート被着片は自重で開かれることを特徴とする請求項1または2記載の便器等の清掃具。

【請求項4】固定手段が、柄部に移動自在に嵌装され、可動挟持片後部に係脱する管体からなることを特徴とする請求項1、2または3記載の便器等の清掃具。

【請求項5】管体が、一側面に開放部を形成した半割り管体からなることを特徴とする請求項4記載の便器等の清掃具。

【請求項6】シート被着片に袋状に形成した払拭シートを被着し、該払拭シートの袋口部をシート被着片上で固定挟持片及び可動挟持片により挟持することを特徴とする請求項1、2または3記載の便器等の清掃具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は主に便所内の便器の清掃に使用される便器等の清掃具に関するものであり、更に詳しくは、着脱式の払拭シートを使用して便器等の被清掃面の汚れを払拭する便器等の清掃具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、便器等の清掃具として、適当な長さの筒管の中に、スライド自在に杆を嵌挿し、該杆の前端上下部に、開動方向にバネ力を作用させた一対の挟持片を装着し、杆の前端に一体的に延出させた支え片を両方の挟持片の間から筒管前方に突出させてなり、杆を前向きに操作して支え片を両方の挟持片前方に突出させるようにすると両方の挟持片が開き、この状態で支え片に雑巾などのパッドを二つ折り状にして被せて挟持片との隙間内に差し込み、この後に杆を後向きに操作すると両方の挟持片が閉じてパッドを支え片上に挟持し、この支え片上のパッドで便器等を被清掃面の汚れを払拭するようにした便器等の清掃具が提案されている。(先行技術としては、例えば、実公昭55-6537号公報参照。)

この種の清掃具では、使用に際してパッドの中に支え片が存在するので、腰くだけがなく、パッドを便器等の被清掃面に強めに当てて汚れを払拭することができて便利なのである。

【0003】しかし、上記するように、筒管の中に嵌挿されて操作される杆の前端に支え片を一体的に延出し、この支え片に被せたパッドを支え片両面に配する一対の挟持片で挟持する構成からすると、挟持片開動のためにバネ部材の組み込みを必要とし、構造を複雑にする。また、支え片は直状の筒体の前方に真っ直ぐに延びて位置するため、支え片上にパッドを挟持して作業者が筒杆を手にとって便器内に差し込んで被清掃面を払拭するには、支え片の前端部に被さるパッド面が主に使用され、支え片両面側のパッド面はほとんど使用されず、有効に使用されるパッド面を狭くする。また、直状の筒体の前方に位置する支え片の前端部に被さるパッド面を被清掃面に当てて汚れを払拭する作業は、操作性が悪く作業がし難いものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】そこで、本発明は、固定挟持片に対しシート被着片を開閉動自在に枢着し、また、シート被着片に対し開閉動する可動挟持片はその後部を後方に延長して固定挟持片と一体とする柄部に枢着して構成の簡素化を図り、可動挟持片後部に連係して配装した固定手段から可動挟持片を開放すると、シート被着片と可動挟持片が自重で開動してシート被着片に被着する払拭シートの着脱を容易にするとともに、シート被着片材を固定挟持片側に反らし形態を採用することにより払拭シートの有効使用面積を拡大し、便器等の被清掃面を払拭し易くして作業性を向上した便器等の清掃具を提供することを目的としたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するための本願発明の請求項1記載の発明は、固定挟持片後方に柄を延設し、固定挟持片下部にシート被着片を配し開閉動自在に枢着し、シート被着片材下部に可動挟持片を配しその後部を後方に延長して柄部に枢着し、該可動挟持片後部に連係して可動挟持片を閉じ位置に固定する固定手段を配装したことを特徴とする。

【0006】ここで、固定挟持片下部におけるシート被着片の枢着位置と、固定挟持片と一体とする柄部に対する可動挟持片後部の枢着位置は前後にずれ、シート被着片と可動挟持片が開かれた状態で、固定挟持片に対するシート被着片の開き角度(鈍角)と、シート被着片に対する可動挟持片の開き角度はほぼ同じ程度に設定されるので、30度程度が好ましい。

【0007】また、シート被着片と可動挟持片が閉じ位置にある時に、シート被着片の前半部が固定挟持片及び可動挟持片の前方に突出し、固定挟持片はシート被着片の上側後半部に当接し、可動挟持片はシート被着片の下側後半部に当接してシート被着片に被着した払拭シートを挟持するが、ここで、請求項2記載の発明のように、シート被着片の前半部を固定挟持片側に反らし、シート被着片の後半部に合わせて固定挟持片と可動挟持片を反

らし形態にするのが好ましい。このように構成すると、柄に対してシート被着片前半部が反ってその下面側(外側)を前向きに円弧を描いて膨らみ状にできるので、この面にぴったり添接する払拭シートで被清掃面が円滑に払拭できる。

【0008】また、使用後に払拭シートを交換したりする時は、請求項3記載の発明のように、可動挟持片が固定手段から開放すると、可動挟持片とシート被着片は自重で開かれて固定挟持片から離れ、可動挟持片はシート被着片下方に離れるので、シート被着片に対する払拭シートの着脱が容易にできる。

【0009】上記する固定手段としては、シート被着片の後半部に当接する可動挟持片を最終閉じ位置に固定する手段であり、柄部に対して可動挟持片後部を閉じ位置に固定するものであれば、特に構造的な限定はないが、柄側から簡単に操作でき、しかも、簡素な構成が好まれることから、請求項4記載の発明のように、柄部に摺動自在に嵌挿され、可動挟持片後部に係脱する管体で構成することができる。また、この管体としては、必ずしも円筒状の管体に限らず、請求項5記載の発明のように、一側面に開放部を形成した半割り管体であってもよい。

【0010】前者のように、円筒状の管体を用いる場合は、管体はどこでも指先で摘んで操作できるので、操作がし易くなる。また、後者のように、半割り管体を用いる場合は、使用後にこれを柄から外すして掃除するような時に、開放部からその内面の汚れが簡単に落として便利なものである。

【0011】なおここで、固定手段とされる管体は、その先端部が柄部から移動していった可動挟持片後部に被さって可動挟持片を閉じ位置に固定するが、この固定を安定なものとするには、管体先端部を可動挟持片後部の枢着部より前の方に寄せて管体内に可動挟持片後部を深く包み込ませるのがよい。このために、管体の操作性も考慮して管体自体の長さを必要な長さに設定してもよいし、また、管体を短管形態のものにしてこれを可動挟持片後部の枢着部より前の方まで移動できるようにし、この管体から後方に操作杆を延設したような構成にすることもできる。

【0012】上記するように、シート被着片に被着して使用する払拭シートとしては、特にその材質や形態的な制約はなく、一般にはシート被着片に合わせて作られた紙製のシートが使用されるが、請求項6記載の発明のように、シート被着片の出入れ自在な周知形態の袋状に形成するのが好ましい。このように払拭シートを袋状に形成すると、この袋状の払拭シートの中にシート被着片を挿入するだけでシート袋口部が固定挟持片と可動挟持片の隙間に入り、後は両挟持片を開動させて挟持させるだけで直ぐに使用でき、清掃作業途中で払拭シートを交換したりする作業も迅速にできて便利なものである。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態の一例を、図面に基づいて説明する。

【0014】図面において、図1はシート被着片及び可動挟持片が開き位置にある状態の清掃具の縦断面図、図2はシート被着片及び可動挟持片が閉じ位置にある状態の清掃具の縦断面図、図3は図1に対応する清掃具の平面図、図4は図2に対応する清掃具の平面図、図5は他の実施の形態における清掃具の側面図、図6は図5中のa-a線における断面図である。

【0015】図において、まず、清掃具本体1について説明する。

【0016】清掃具本体1を構成する固定挟持片2の後方に柄3を延設している。固定挟持片2はほぼ正方形をなし、柄3の後端にはネジ結合によって握り部4を着脱可能に設けている。

【0017】固定挟持片2の下部にシート被着片5を配し、このシート被着片5を枢軸6で固定挟持片2に開閉自在に枢着している。このシート被着片5は固定挟持片2との間でほぼ30度程度に開かれ、閉じられる時は、その上側後半部に固定挟持片2が重合状に当接するようにしている。

【0018】シート被着片5の下部に可動挟持片7を配し、この可動挟持片後部7aを後方に延長して枢軸8で柄部に開閉自在に枢着している。この可動挟持片7はシート被着片5との間でほぼ30度程度に開かれ、閉じられる時は、この可動挟持片後部7aの枢着位置とシート被着片5の枢着位置が前後にずれている関係で、閉動途中でシート被着片5の下側後部に重合状に当接し、このシート被着片5とともに閉動を続けてシート被着片5が固定挟持片2に当接して閉じられる。

【0019】また、シート被着片5は、その前半部を固定挟持片2側に反らし、このシート被着片5の後半部に合わせて固定挟持片2と可動挟持片7も同方向に反らし形態とし、柄3に対するシート被着片5の反り角度を大きくするようにしている。

【0020】シート被着片5及び可動挟持片7を閉じ位置に固定する手段として、可動挟持片後部7aに係脱する管体9を柄3に嵌装している。

【0021】この管体9により可動挟持片後部7aを柄部に固定するために、可動挟持片後部7aは柄3の下面に設けた切欠部10に合わさって柄3の太さと同じになるようにし、また、柄3の上面には、可動挟持片後部7aに対応して柄3と固定挟持片2との結合部付近に達するガイド溝11を長手方向に形設し、このガイド溝11の前端部に周方向に止め溝11aを連設している。

【0022】そして、ガイド溝11に管体9の先端部内面に突設した突起12を係合させて管体9は摺動し、管体9が後退位置にある時に、可動挟持片後部7aから後方に離れて可動挟持片7の開閉動を自由にし、管体9を後退位置から前進させると、管体9内に可動挟持片後部

7aが入り込んで可動挟持片7とシート被着片5を閉動させ、管体9が最前進位置に到達すると、突起12を止め溝部11aに入り込ませてロックするようにしている。

【0023】図5及び図6に示される実施の形態では、上記する円筒状の管体9に代えて一側面に開放部を形成した半割り管体13を用いている。この半割り管体13の開放部両縁に内向きに係合縁14を形成し、この係合縁14に対応して柄3の両側から可動挟持片後部7aに掛けて縮径状に係合段15を設け、半割り管体13を柄3の上側に被せるようにして係合縁14に係合段15に係合させ、この半割り管体13を摺動させて可動挟持片後部7aに係脱するようにしている。なお、このような半割り管体13は、柄3から外されてその内部の清掃を便利にするものである。

【0024】一方、シート被着片5に被着される払拭シート16としては、シート被着片5が緩く出し入れできる大きさで周知形態の袋状に形成したものを使用し、この袋状の払拭シート16にシート被着片5の中に挿入してその袋口部16aを固定挟持片2及び可動挟持片7で挟持するようにしている。

【0025】次に、上記のように構成された清掃具の使用方法について説明する。

【0026】まず、管体9（または半割り管体13）を後退操作してシート被着片5と可動挟持片7を開く。この場合に固定挟持片2を上にして持ち上げるようにするだけで、シート被着片5と可動挟持片7は自重で開かれる。

【0027】この状態で、袋状をなす払拭シート16の中にシート被着片5を挿入してから、管体9を前進動させると、この管体9内に可動挟持片後部7aが入り込む過程で可動挟持片7が閉動を開始し、シート被着片5の下側後部に当接した後、シート被着片5とともに閉動が続いてシート被着片5も閉じてシート被着片5に被着した払拭シート16の袋口部16aを固定挟持片2及び可動挟持片7で確り挟持するようになる。

【0028】こうして柄3に対して反りを有するシート被着片5は、その下面が前向きに円弧を描いて膨らみ状となり、この面にぴったり添接する払拭シート16面を使用して便器等の被清掃面が円滑に払拭できる。また、一定期間を使用して払拭シート16が汚れると、上述のシート被着片5に対する払拭シート16の被着動作と反対の動作を行って払拭シート16を取り外し、新しいものと交換する。

【0029】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、本発明によれば、固定挟持片に対しシート被着片と可動挟持片が自重で開かれるから、シート被着片に被着する払拭シートの着脱が容易になり、作業性を向上する。また、シート被着片は可動挟持片を介して閉動し、可動挟持片後部を柄部に固定することによりシート被着片と可動挟持片の両方が閉じ位置に固定できるから、清掃具の構成を簡素化できる。さらに、側面視において、シート被着片を反らし形態にして前向きに円弧を描いて膨らみ状になるシート被着片の下面側にぴったり添接する払拭シート面で被清掃面を払拭できるから、払拭シートの有効使用面積を拡大できて使い捨てされる払拭シートの経済的な無駄を軽減できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】シート被着片及び可動挟持片が開かれた状態における清掃具の縦断面図である。

【図2】シート被着片及び可動挟持片が閉じられた状態における清掃具の縦断面図である。

【図3】図1に対応する清掃具の平面図である。

【図4】図2に対応する清掃具の平面図である。

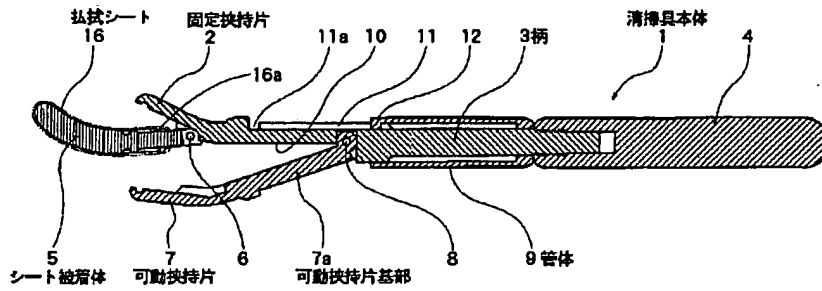
【図5】他の実施の形態における清掃具の側面図である。

【図6】図5中のa-a線における断面図である。

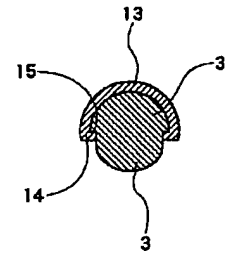
【符号の説明】

- 1…清掃具本体
- 2…固定挟持片
- 3…柄
- 4…握り部
- 5…シート被着片
- 6…枢軸
- 7…可動挟持片
- 7a…可動挟持片後部
- 8…枢軸
- 9…管体
- 10…切欠部
- 11…ガイド溝
- 11a…止め溝部
- 12…突起
- 13…半割り管体
- 14…係合縁
- 15…係合段
- 16…払拭シート
- 16a…払拭シート袋口部

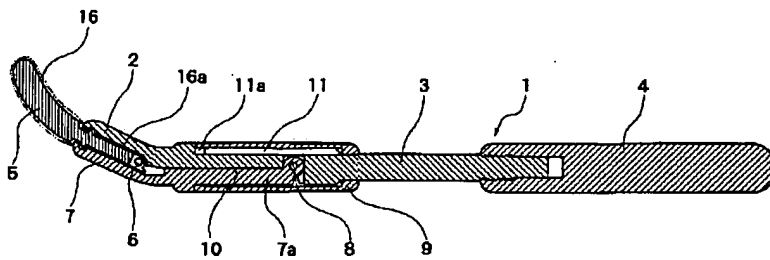
【図1】



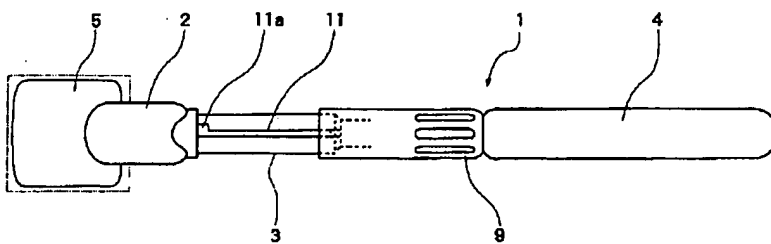
【図6】



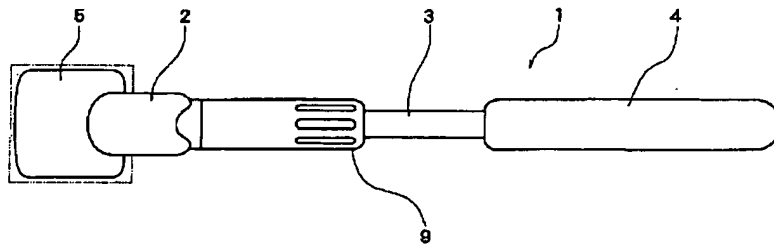
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

